

研究者が育つ過程

海外にはばたく研究者になるために

特集1では、博士論文執筆のさまざまな経験を通して、問いのありようが示されました。

では博士を取得し、次なる選択肢をどうとるのか。さまざまな道があると思います。

特集2では、研究者として歩んでいく道の1つのモデルとして、日本学術振興会の特別研究員制度を取り上げます。本制度の概要や看護学における申請・取得状況と今後の展開を踏まえ、この制度を用いて海外に留学し、充実した研究者生活を送られている経験を紹介します。こうした経験を得るには、研究者自身のたゆまぬ研鑽とともに、指導教員のサポートが不可欠です。海外にはばたく研究者を育成するために、指導者として、そして看護学として何が必要かを考えます。

『看護研究』編集室